

2014年度

# 事業計画書

2014年4月 1日から  
2015年3月31日まで

公益社団法人日本麻酔科学会

## 法人の概要

日本麻酔科学会の大きな使命は、安全で質の高い医療を提供するための事業活動を通して、国民の健康と福祉の増進に寄与することである。本学会はこの使命を達成するため、これまで麻酔科専門医の育成や国民への啓発をはじめとする種々の取り組みを行ってきた。2011年4月1日に公益社団法人に認定され、本学会の社会貢献の役割が更に明確化されたところである。

本学会の発展と向上のためには、多岐にわたる情報収集と的確な状況把握が不可欠であり、「日本麻酔科学会中期・長期計画」を2008年度に策定、2011年度に改定した。それに基づき単年度の事業計画を作成している。

### (基本方針)

以上の状況を踏まえ、本年度は次の4点を軸に事業計画を策定した。

- (1) 公益法人として従来の取り組みを検証しつつ、事業の明確化を図る
- (2) 学会理念、中期・長期計画に基づき、より効果的な計画を立案する
- (3) 定款及び内部規程に沿った業務運営を徹底させ、組織の強化を図る。
- (4) システムを構築し、基本情報の整備を行う。

## 1. 事業の概要

本学会は、以下の理念を掲げ事業を行う。

公益社団法人日本麻酔科学会（以下、本学会という）は、周術期の患者管理を中心としながら、救急医療、集中治療、疼痛管理、緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で安心できる医療を提供する。

### (1) 質の高い麻酔科医の育成

質の高い麻酔科医とは、周術期管理、侵襲制御、疼痛管理等において優れた知識と技術、およびコミュニケーション能力を有し、チーム医療を中心的に担える者である。本学会は知識や技術、能力を習得するためソフト面およびハード面を整備し、次世代の日本の医療を十分に担う質の高い麻酔科医を多く育成する。

### (2) 先進的研究の推進と新たな医療技術の創成

医療において人類の幸福に役立つ新しい知見や技術の創成が重要である。本学会はそのような研究を支援し、得られた発見（知見）や技術、情報を社会に提供する。

### (3) 麻酔科医療の啓発

国民が安全で安心できる医療を受けるには、国民に対し麻酔科医療に関する正しい知識や認識を提供する必要がある。本学会は広報活動や日常の診療を通じて国民に麻酔科医が担う医療の役割や重要性を啓発し、その認識を普及させる。また、医学生や研修医に対しても麻酔科関連医療の重要性を啓発し、麻酔科専門医の拡充を図る。

### (4) 他領域との協働

患者中心の安全で質の高い医療を供給するために、本学会は他科の医師や看護師、薬剤師、臨床工学技士などのコメディカルと真のチーム医療として周術期管理チームを組織し、それを実践する基盤を確立する。

### (5) 国際的な医療連携への貢献

麻酔関連領域における国際的医療水準を高めることは重要である。本学会は世界各国との連携のもとに国際的な医療人の育成や組織作りを推進する。世界麻酔科学会（WFSA）及びアジア・オーストラレーシア地区（AARS）の一員として、とくにアジア地域と人材および知識交流に努める。

## 2. 事業の区分

理念に基づく事業区分を公益法人申請にあたり、以下の通りとした。

### (1) 公益目的事業

公1 麻酔科学の新たな発展のために国内外の先端的研究を奨励・推進・支援し、あわせて国内外の関連学術団体をはじめ関係方面と研究・協力をを行い、もって新しい技術と正しい知識の普及・啓発を図り、その成果を社会に還元する事業（学術事業・交流事業）

公2 会員が専門的知識や技術を習得するために、研修及び麻酔科関連業務に関わる医師及び施設の審査・認定を実施し、あわせて麻酔科関連医療に関わる調査および研究の推進を図り、特に麻酔科関連の事故症例の検証により再発防止に努め、もって社会に安全で良質な医療を提供するための事業（教育事業・安全事業）

公3 一般市民が安全で安心できる医療を受けるために、医療に関する正しい知識や認識の向上を図り、さらに麻酔科医が担う医療の役割や重要性を啓発し、普及させる事業（公益事業）

### (2) 収益事業等

収1 医師賠償責任保険の加入仲介事業

収2 展示出展事業

## 3. 事業計画

事業区分にある公益目的事業公1、公2、公3にある事業を組織運営上、委員会に割り振り運営を行っている。

公1は、学術事業、交流事業であり担当委員会は、以下の通りである。

- ・学術委員会
- ・国際交流委員会
- ・関連領域検討委員会

公2は、教育事業、安全事業であり担当委員会は以下の通りである。

- ・教育委員会
- ・安全委員会
- ・救急心肺蘇生検討委員会

公3は、公益事業であり担当委員会は以下の通りである。

- ・広報委員会
- ・麻酔博物館事業検討委員会

また、管理運営部門として以下の組織を置いている。

- ・総務委員会
- ・財務委員会
- ・倫理委員会
- ・事務局

各委員会の委員長は理事とし、統括として常務理事をおいて運営を行う。以下に各委員会の事業計画の概要を記す。

### (1) 公益目的事業

#### ●公益目的事業Ⅰ（学術・交流事業）

##### 1) 学術委員会（委員長：山田理事）

①学術集会、学術講演会等の開催（学術集会・講演会事業）

2014年度は事業の検証を行いつつ、変更すべき点は改善する。5月15日～17日年次学術集会、8月第4週～9月第2週にかけて支部学術集会を開催する。また、セッション毎の参加者状況を把握・分析し、今後の企画に反映させる。さらに、年次学術集会を長期的な視野で捉え、開催場所、時期、テーマの大枠の検討を開始する。支部学術集会については、企画作成への学術委員会の関与を行う。

#### <年次学術集会>

第61回学術集会を2014年5月15日(木)～5月17日(土)、パシフィコ横浜で開催予定。メインテーマは「Anesthesiology-Impact at Present and Potential for the Future」とし、各種講演、シンポジウム等を実施する。

#### <支部の学術集会>

各支部で合計6回の学術集会を開催する予定。

- ・ 北海道・東北支部第4回学術集会(会長:山蔭 道明)  
2014年9月13日(土) 於:札幌プリンスホテル
- ・ 関東甲信越・東京支部第54回合同学術集会(会長:寺嶋 克幸)  
2014年8月30日(土) 於:京王プラザホテル
- ・ 東海・北陸支部第12回学術集会(会長:土田 英昭)  
2014年9月13日(土) 於:金沢市文化ホール
- ・ 第60回関西支部学術集会(会長:南 敏明)  
2014年9月6日(土) 於:大阪国際交流センター
- ・ 中国・四国支部第51回学術集会(会長:松本 美志也)  
2014年9月13日(土) 於:海峡メッセ下関
- ・ 九州麻酔科学会第52回大会(会長:佐多 竹良)  
2014年9月6日(土) 於:北九州国際会議場

#### ②機関誌等の頒布・査読編集(学術出版物事業)

国内外の研究業績については、2ヶ月ごとに機関誌「Journal of Anesthesia(6号:Vol.28-No.2～Vol.29-No.1)」を約15000部発刊し、会員、官公庁、研究者、国内外の関連する学術団体等に頒布する。会員宛にはJournal of Anesthesiaの目次をメールで配信する。さらに、インターネットを媒体として情報を提供し、インパクトファクター(引用度)向上のための具体策を検討する。準学会誌「麻酔」は月刊で12号(Vol.63-No.4～Vol.64-No.3)を発行する予定であり、学術集会のプログラムは客観的で公正な査読を行ったうえで、無料で会員に配布する。抄録については、会員専用ホームページ掲載し、会員以外には抄録閲覧可能なパスワード付プログラムを販売し、学術集会プログラム及び抄録の閲覧可能な携帯情報端末用アプリを開設予定である。査読・編集に関しては、関連分野に精通した臨床家や研究者を充てて行い、質の高い情報を提供している。2014年度は、新たに「JA Clinical Report」の創刊を検討し、臨床分野の研究を推奨する方策を立てる。

#### ③学術研究の奨励、支援(研究奨励・支援事業)

世界麻酔科学会連合アジア・オーストラレーシア支部に委員を派遣し、これらと連携して国際的な研究交流を行う。また、2014年11月8日に開催される第2回東アジア麻酔科学会に講演演者を派遣する。

#### ④研究業績等の表彰(研究表彰事業)

学会賞5賞(山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・松木賞・社会賞)の選考を行い、顕彰する。また、

年次学術集会、各支部学術集会で学術委員会による審査を経て理事会で決定している最優秀演題について、受賞賞金使途に関するアンケート調査を行う。

#### ⑤学術論文雑誌、医療関連雑誌、映像等の収集・集約化（学術関連資料アーカイブ事業）

麻醉博物館を設置しているが、国内外の麻醉科関連分野の学術論文、医療関連の雑誌・映像等をそこに収集・集約し、医学・医療について正しく理解できる場を、会員はもとより一般市民やマスメディアに提供する。

### 2) 国際交流委員会（委員長：横山理事）

国外団体との協力の面からは、諸外国の麻醉科関連国際団体との交流促進するため、WFSA（世界麻醉科学会連合）が世界各地に対して行う活動への協力体制の確立、東アジアの学術基盤を形成する。2014年度は韓国に於いて第2回東アジア麻醉学会を中国、韓国と共同開催し、WFSAアジア・オーストラレーシア支部（AARS）へは Treasurer（大嶽浩司氏）を派遣する。人的交流の面からは、発展途上国の麻醉科医に対する教育講演を行うことと留学生を受け入れることで、発展途上国の麻醉科医の人材育成に寄与する。知識交流の面からは、英語版学会ホームページの充実のために、コンテンツを再構築し、海外への活動報告ができるページを作成、ガイドライン、認定制度の紹介等、英訳し掲載する範囲の検討及び英訳の継続実施を行う。

### 3) 関連領域検討委員会（委員長：工藤理事）

「他領域と協働する医療」に関連する交流事業戦略の下、集中治療、疼痛治療、緩和医療など麻醉科関連領域部門との関わりについての検討を行う。第62回学術集会関連領域検討委員会企画についての検討、2013年度に実施した緩和ケアチームにおける麻醉科医の勤務状況現状調査アンケートの集計・解析を行う。

## ●公益目的事業Ⅱ（教育・安全事業）

### 1) 教育委員会（委員長：上村理事）

#### ①教育プログラム等の策定（教育プログラム策定事業）

麻醉科医の生涯教育としての段階的目標を掲げ、その達成のための再教育プログラムの提供を行い、それによって均質な医療水準の維持と普及をはかる。2014年度は教育ガイドラインの改訂を行い、2015年度より開始する新専門医制度において、専門医を目指す医師が履修すべき教育項目について引き続き検討を行う。

#### ②麻醉業務に関わる医師、施設の審査・認定（認定事業）

麻醉科医は、周術期管理、救急・集中医療、ペインクリニック、緩和医療、総合診療などを主たる活動領域とし、医学・医療全般に深く関わっている。これらの分野での経験年数、研究実績、医療従事者や一般市民への指導・教育実績等の段階的到達目標を設定し、到達度にあわせて、麻醉科認定医、麻醉科専門医、麻醉科指導医という資格を認定しているが、2014年度も引き続き認定を行う。また、安全で質の高い麻醉科関連医療を格差なく社会に提供するため、施設の認定も引き続き行う。2015年度より開始する新認定制度の実施に伴い、麻醉科研修プログラムの認定を開始する。

#### ・専門医資格試験の実施

2014年9月28日、10月3日～5日、第53回麻醉科専門医認定試験を実施予定。

筆記試験：9月28日実施

会 場：ベルサール汐留（東京会場）、神戸国際展示場（神戸会場）  
口頭試験・実技試験：10月3日～5日実施  
会 場：神戸ポートピアホテル（神戸会場）

・認定医等の資格更新審査

通年（4月，8月，1月）：新規認定医審査および新規認定病院審査  
2014年7月，10月：新規麻酔科研修プログラム審査  
（申請期間：2014年5月1日～6月31日，7月1日～9月30日）  
2014年10月：新規麻酔科指導医審査（申請期間：2014年7月1日～8月31日）  
2014年12月末：麻酔科指導医・専門医・認定医更新予定者および麻酔科認定病院更新予定施設  
の審査。（申請期間：2014年9月1日～10月31日）

③生涯教育・研修（生涯教育・研修事業）

質の高い麻酔科医の育成のため，周術期管理，救急・集中医療，ペインクリニック，緩和医療等，危機管理，最新のトピックスについての新しい知識の定着を目的とした教育講座を開催している．現在までに計12回の開催実績があり，受講者は1回につき1000名を超えている．従来は麻酔科専門医試験受験者を対象とした内容であったが，2011年度からは麻酔科専門医取得済みの麻酔科医も対象とし，開催コース数を拡大するとともに麻酔科関連のガイドライン解説のコースを新設した．2014年度は，42コース開催する．

④教育普及（教育普及事業）

麻酔科関連医療が十分普及していない諸外国において，教育講座等の開催，また周術期（手術前・中・後）の麻酔科業務について協働する医療従事者の教育を行い，その成果を当該国の社会に還元している．2014年度はチーム医療推進のため，看護師，薬剤師，臨床工学技士を対象としたセミナーを開催すると共に看護師に対して認定制度を開始し，周術期における手術室業務全般に関する教育内容・方法については周術期管理チーム委員会で検討する．また，蘇生教育として心肺蘇生法を個人・団体に提供できるよう医師，医療従事者の教育と指導者の養成を行う．関西支部においては主として若手医師を対象とした症例検討会を年3回開催する．

・周術期管理チーム看護師認定の資格試験の実施

筆記試験：2014年11月22日

会 場：有明TOC（東京会場），神戸ポートピアホテル（神戸会場）

2014年7，8，9月：新規周術期管理チーム看護師審査（申請期間：2014年5月15日～6月末日）

**2) 安全委員会（委員長：白石理事）**

①安全な医療実現のための調査（安全調査事業）

麻酔科関連医療の安全性向上のため，事故調査，分析を行う．偶発的に発生する事故を分析する偶発症例調査は1993年から毎年1回行っており，2014年度も引き続き実施する．また，同調査と同時に周術期肺血栓塞栓症症例調査を行う．両調査の2012年度調査の成果は2014年度中に分析を行い，公開する．JSAPIMSを利用し，麻酔科認定施設から周術期医療に関するデータを収集，活用する．また，多くのデータを収集するため，普及策の検討を行う．

麻酔関連機器の故障調査，麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関する情報は会員および麻酔関連機器，薬剤メーカーから情報を収集し調査を進め，その成果は会員のみならず一般市民やマスメディアに

もホームページを介して公開する。

団体契約を結んでいる保険会社から提供される個人情報进行分析し、事故再発予防策を立てるClosed Claims Project については、保険会社3社を対象に2014年度調査を行い、その結果を2013年度以前の累積データに付加し解析する。

#### ②安全な医療実現のための情報提供（医療関係者への情報提供）

本学会が認定する専門医のいる医療施設の公開、更新を行う。安全な医療を実施するためのガイドラインの公開事業として、気道確保に関するガイドライン及び周術期禁煙ガイドラインを公開する。また、麻酔器の始業点検を改訂する。他に、2013年度までに公開した指針、ガイドラインについて改訂の必要性を検証し、アメリカ麻酔科学会等、代表的な学会が公表している麻酔関連機器に関するガイドラインの調査を行い、新しいガイドライン作成の必要性を検討する。医師への教材提供として、新しい知識の定着を目的とした教育講座テキストを作成し、会員を対象に公開する。

#### ③麻酔科関連医療の安全性の担保（医療事故再発防止事業）

医療事故再発防止のため、麻酔科関連分野に関わる事故が発生した際、速やかに検証を行い、適宜、再発防止指針（ガイドライン）、手順（マニュアル）等の作成を検討する。また、他団体と協力し、手術室の安全管理について検討を進める。具体的には、当会が主導的立場となり、WHO の手術安全チェックリストの普及および普及状況の調査検討を進める。

#### ④麻酔科医の適正配置（マンパワー適正化事業）

一般市民が等しく質の高い医療をうけられるように麻酔科医の適正配置に努める。2014年度は2013年度に実施したアンケートを集計・解析し、麻酔科医の現状を調査報告書としてまとめる。また、学会として必要なデータ項目、収集方法を検討する。

### 3）救急心肺蘇生法検討委員会（委員長：有村理事）

各地方のトレーニングサイトに委託し、BLS 講習会、ACLS 講習会を開催する。

## ●公益事業（普及啓発）

### 1）広報委員会（委員長：坂本理事）

本学会の活動を広く社会及び本学会会員に広報する普及啓発事業戦略をたて、一般社会、各種マスコミ、会員、臨床研修医、医学生、及び関係各省庁に向けた活動・検討を行う。

#### ①医療全般、医療事故等の相談窓口（医療に関する相談事業）

一般市民からの麻酔科関連医療に関する質問を電子メール、文書等で受け付け回答する。

#### ②メディア戦略の検討・実施（メディア戦略事業）

取材協力、ニュースリリースの配布などを積極的に実施し、マスメディアを通じて広く社会に麻酔科関連医療を正しく理解してもらうための活動を行う。2012年度に開設した Facebook をはじめ、医療安全に関するコンテンツを中心に更なる充実を図る。10月13日（日）麻酔の日一般市民を対象に麻酔に関する新聞記事、テレビ番組を作成し、啓発を行う。また、医学生、卒後臨床研修医向けの麻酔科説明パンフレットの作成を行う。

#### ③会員・市民への出版物発行（出版物発行事業）

・公益社団法人日本麻酔科学会ニューズレターを4号（Vol. 22-No. 2～Vol. 23-No. 2）発行する。

※関西支部：近畿麻酔科医界第62号（8月）、第63号（2月）を発行、九州支部：年報38号を発行予定

・一般市民向けにわかりやすく麻酔について解説した「麻酔のしおり」（2013年8月発行）を作成し、実費程度の廉価で全国の医療施設に販売する。

#### ④市民へのセミナー，シンポジウム等の開催（啓発事業）

一般市民向けの教育講座を開催し，麻酔科関連医療について正しい知識と認識を普及させる。

## 2）麻酔博物館事業検討委員会（委員長：木内理事）

麻酔博物館事業として，麻酔博物館の運営を行う。麻酔科関連医療について今日の医療が確立されるまでの歴史的展示物を公開し，併せて最新機器を展示・収蔵し，正しい医療知識の普及を図る。麻酔関連の医療に関して，実際どのようなことが行なわれているのか情報が少ないため，医療現場を再現し，目で見て体感してもらい，よりわかりやすい形で情報を得られる施設を目指す。2014年度は定期的に団体を受け入れ啓発を行うほか，継続的に資料収集を進める。また，展示資料の英語併記を行い，2021年に開催される麻酔科学史国際シンポジウムを誘致することが決定しているため，誘致活動を行う。

### （2） 管理部門

#### 1）総務委員会（委員長：齋藤理事）

学会理念達成のため，麻酔科診療発展・医療貢献事業戦略，社会保険における麻酔科診療の評価の見直しおよび麻酔科医の労働環境の改善・整備に関する事業戦略を検討する。学会組織に係わる事項，すなわち組織運営に関する事項，会則検討に関する事項を担当する。

2014年度は，麻酔科医適正配置部会において必要な学会データの検討，会則検討部会では会則の検討，社会保険部会では平成26年度診療報酬改定の反省と次期改定に向けての要望をとりまとめる。

#### 2）財務委員会

学会の財務基盤を長期的に安定させるため，適切な事業計画作成を可能とするために，過去の予算案，決算書，財務管理の実績と現状を分析し，将来的予測を見据えて正確な資金計画をたてる。学会の円滑な業務執行を可能にするために，健全な財務状況を維持するような計画を立案する。

2014年度は，2013年度決算報告ならびに2014年予算の補正検討，2014年度各月、月締め決算検討，第61回学術集会決算関連について検討，2015年度予算案について検討，中長期財務計画について検討，2014年度暫定決算・資産についての検討等を行う。

### 3）倫理

麻酔科関連領域の医学・医療の倫理に関する事項を検討する。麻酔中の医療事故，医療関連死について検討を行う。また，各委員会で企画・施行されるアンケートおよび研究について倫理的問題の有無を確認する。

#### 4）事務局（事務局長：工藤理事）

##### ①事業運営について

事業運営が策定した業務チェックリストに沿って行われているか確認し，円滑な事業運営のための改善を行う。また，各事業から提出された事業報告書の確認を行い，運営が適正に行われたか否かを

確認し、半期に一度事業監査を実施する。事業計画についても同様に、適正な事業か否かを判断し、財務委員会と連携して次年度予算作成と併せて審議を行う。

## ②システムの開発

会員情報の総合システムを2008年度から順次導入しており、システムのあり方について、状況確認と検討を進めていく。

## 5) その他

### ①登録・派遣

日本学術会議、日本医師会、日本医学会、厚生労働省医道審議会標榜医審査会、日本専門医制評価・認定機構、大学評価・学位授与機構、日本外科学会、外科系医学会社会保険委員会連合、外科関連協議会、日本救急医療財団、日本蘇生協議会、3学会合同呼吸療法士認定委員会、医療機能評価機構、骨髄移植推進財団、臓器移植ネットワーク、全国MC協議会、医療安全全国共同行動等に委員を派遣し、各々の目的と事業に合わせ連携・協力予定。

### ②各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム、日本臨床麻酔学会市民公開講座、社団法人日本ME学会ME技術講習会・検定、財団法人日本救急医療財団「救急の日」等、バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等、関連協力団体の学術集会および講習会、市民公開講座等を協賛・後援予定。

## 4. 2014年度社員等一覧

<役員：22名>

理事：有村敏明	上山博史	尾崎真	上村裕一
木内恵子	工藤一大	齋藤繁	齋藤洋司
坂本篤裕	白石義人	須加原一博	鈴木健二
鈴木利保	住田臣造	中尾慎一	西脇公俊
廣田和美	外須美夫	山田芳嗣	横山正尚

監事：古家仁 森田潔 岩崎寛

<代議員：271名>

青江知彦	赤田信二	赤塚正文	足立健彦	天谷文昌	有村敏明	安藤富男
飯田宏樹	五十嵐孝	石川岳彦	石田和慶	出田眞一郎	五十洲剛	磯野史朗
市川敬太	一瀬廣道	稲垣喜三	稲田英一	猪股伸一	伊波寛	伊良波浩
岩崎寛	岩瀬良範	岩波悦勝	上山博史	牛島一男	内野博之	梅垣修
梅田英一郎	江崎公明	大久保和章	大島正行	大瀬戸清茂	太田宗一郎	太田助十郎
大塚直樹	大西佳彦	大平直子	近江明文	岡龍弘	岡本浩嗣	岡安理司
於川勝美	小川賢一	奥田泰久	奥谷龍	奥富俊之	小倉信	尾崎眞
小澤章子	忍田純哉	小野和身	小幡英章	甲斐哲也	貝沼関志	香川哲郎
垣内英樹	風間富栄	樫本温	門井雄司	加藤孝澄	上農喜朗	狩谷伸享
川上浩文	川口昌彦	川崎孝一	川崎貴士	川股知之	川真田樹人	川村隆枝
河本昌志	管桂一	上村裕一	北浦道夫	北口勝康	北村晶	木内恵子
木下博之	金徹	木村信行	櫛方哲也	工藤一大	国元文生	倉橋清泰

黒澤 伸	小板橋 俊哉	小出 康弘	後藤 隆久	小林 俊哉	小林 佳郎	小森 万希子
小山 薫	金 正	近藤 修	最首 俊夫	斎藤 重行	齋藤 繁	齊藤 洋司
境田 康二	坂口 嘉郎	坂本 篤裕	笹野 寛	佐多 竹良	佐藤 重仁	佐藤 淳
佐藤 大三	佐和 貞治	澤村 成史	塩川 泰啓	志賀 達哉	重松次郎昌幸	重見 研司
設楽 敏朗	清水 淳	下村 俊行	下山 恵美	白石 義人	白神 豪太郎	須加原 一博
杉田 道子	杉本 季久造	杉山 和英	鈴木 健二	鈴木 健雄	鈴木 利保	鈴木 康之
角倉 弘行	住田 臣造	瀬尾 勝弘	瀬川 一	関口 芳弘	瀬戸 倫義	世良田 和幸
芹田 良平	其田 一	祖父江 和哉	多賀 紀一郎	高石 和	高雄 由美子	高崎 康史
高橋 浩	瀧田 恒一	竹内 護	武田 明雄	竹中 元康	田代 雅文	多田 文彦
多田羅 恒雄	舘田 武志	田中 克哉	田中 誠	田中 源重	谷口 正彦	玉井 久義
中馬 理一郎	津崎 晃一	土田 英昭	恒吉 勇男	坪内 宏樹	坪川 恒久	寺井 岳三
寺嶋 克幸	照井 克生	土井 克史	遠山 一喜	時岡 宏明	中尾 慎一	長尾 乃婦子
中澤 正和	中澤 弘一	永田 博文	中塚 秀輝	中村 達雄	中村 不二雄	中村 正人
長櫓 巧	新見 能成	西川 精宣	西川 光一	西川 俊昭	西田 修	西村 信哉
西山 友貴	西脇 公俊	野村 実	萩平 哲	橋口 清明	橋本 悟	馬場 知子
馬場 洋	濱口 眞輔	濱田 宏	林 行雄	肥川 義雄	尾頭 希代子	尾藤 博保
日野原 宏	平川 奈緒美	廣田 和美	広田 喜一	福崎 誠	福重 哲志	福田 和彦
福田 悟	藤井 ひとみ	藤田 喜久	藤村 直幸	藤原 祥裕	古家 仁	外 須美夫
堀口 剛	前川 信博	前原 康宏	槇田 浩史	槇田 徹次	松井 秀明	松川 隆
松永 明	松本 晶平	松本 富吉	松本 美志也	松本 睦子	眞鍋 治彦	間瀬 則文
間宮 敬子	水野 圭一郎	水本 一弘	溝渕 知司	溝部 俊樹	光畑 裕正	南 敏明
宮澤 典子	宮部 雅幸	村尾 浩平	村川 雅洋	室園 美智博	森 隆	森 美也子
森崎 浩	森田 潔	森松 博史	森本 裕二	森山 潔	森脇 克行	諸岡 浩明
安田 誠一	山内 正憲	山浦 健	山蔭 道明	山口 重樹	山崎 隆史	山崎 光章
山田 光輝	山田 達也	山田 徳洪	山田 芳嗣	山本 達郎	横井 雅一	横田 美幸
横野 諭	横山 正尚	吉川 大輔	吉田 仁	米井 昭智	萬 知子	萬家 俊博
渡邊 昭彦	渡邊 至	渡邊 啓介	渡辺 裕生	渡辺 博		

<会長 1 名・副会長 2 名>

会 長：山 田 芳 嗣  
副 会 長：福 田 和 彦  
：外 須 美 夫

<事 務 局>

事 務 局 長：工 藤 一 大  
副 事 務 局 長：上 山 博 史  
事 務 局：足 立 健 彦 多 田 恵 一 増 田 純 一

神戸事務局  
東京事務所

5. 2014 年度関連諸団体委員等一覧

【日 本 医 師 会】

疑義解釈委員会：齋 藤 繁

【日本医学会】

評 議 員：外 須美夫

連 絡 委 員：山 田 芳 嗣

医学用語連絡委員：榎 田 浩 史

代 委 員：浅 井 隆

【厚生労働省医道審議会標榜医審査会】

審査委員 10 名

【外科関連学会協議会】

委 員：田 上 惠

【外科系医学会社会保険委員会連合】

処 置 委 員 会 委 員：岩 瀬 良 範

検 査 委 員 会 委 員：土 井 松 幸

実務委員会委員・手術委員会委員：横 田 美 幸

手術委員会（コーディング WG）：澤 智 博

手術委員会（医療材料・医療機器 WG）：土 井 松 幸

麻酔委員会：山 田 芳 嗣 田 上 惠 横 田 美 幸

【日本救急医療財団】

理 事：花 岡 一 雄

心肺蘇生法委員会委員：多 田 惠 一

【日本蘇生協議会委員】

委 員：多 田 惠 一

【3学会合同呼吸療法士認定委員会】

派 遣 委 員：大 村 昭 人 安 本 和 正 中 澤 弘 一 妙 中 信 之

落 合 亮 一

【日本歯科麻酔学会】

監 事：小 板 橋 俊 哉

【全国MC協議会連絡会幹事会】

幹 事：多 田 惠 一

【全国医療安全共同行動】

委 員：西 脇 公 俊

【禁煙学術ネットワーク】

委 員：西 脇 公 俊

【World Federation of Societies of Anesthesiologists (WFSA)】

Executive Committee: 稲 田 英 一

○Permanent Committees

Constitution: 大 嶽 浩 司

Publications: 廣 田 和 美

Safety and Quality of Practice: 前 川 信 博

Scientific Affairs: 土 田 英 昭

○Subspecialty Committees

Pain Relief: 長 櫓 巧

○Working Party

Manpower Committee: 山 蔭 道 明

Professional Wellbeing Working Party: 森 田 潔

【Asian and Australasian Regional Section (AARS)】

Treasurer: 大 嶽 浩 司

以上